

1 題材「情景を思い浮かべながら、表情豊かに歌おう。」

(教材「浜辺の歌」 林古溪作詞、成田為三作曲)



2 題材計画(全4時間)

知:知識・技能 思:思考・判断・表現 態:主体的に学習に取り組む態度

次	時	学習活動・内容	主な手だて	評価
一	1	1 「浜辺の歌」の歌詞の情景をイメージし、旋律を歌う。 ・作者の心情 ・浜辺を散歩している情景	○作者の思いをより鮮明に感じ取らせ、浜辺で散歩をしている情景をイメージさせるために、歌唱をさせる際に、辻堂海岸の実際の様子動画を投影する。	態:「浜辺の歌」の歌詞の情景に関心をもち、主体的に歌唱の学習に取り組もうとしている。
二	1	2 「浜辺の歌」の音楽的特徴を感じ取り、表現を工夫して歌う。 ・波のように変化する強弱 ・二部形式	○強弱の変化が波などの浜辺の情景を表していることを感じ取らせるために、強弱の変化が視覚的にもわかる強弱マップを提示する。	思:「浜辺の歌」の旋律、強弱、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。
三	1	3 「浜辺の歌」の音楽ポートフォリオを記録(録音)する。 ・主旋律の音程、リズム ・表したい浜辺の散歩のイメージにふさわしい歌唱表現	○録音をする際に、それぞれが表現したい思いや意図をより明確に関連付けさせるために、創意工夫する点を「○○な感じを表現するために、□□な工夫をして歌います。」という定型文に当てはめて書くよう促す。	知:浜辺で散歩をしている情景を表すための創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱で表している。
四	1 本時	4 「浜辺の歌」のアレンジ版を聴取し、音楽を形づくっている要素と曲想、自己のイメージ(感情)との関連を感じ取る。 ・音楽を形づくっている要素(旋律、速度)と曲想、自己のイメージ(感情)との関わり	○それぞれが感じ取った曲想の変化を表現しやすくするために、あらかじめ選んだ様々な感情を表した顔の絵文字を提示し、それぞれで感じ取った曲想にどれが最もふさわしいかを問う。	態:アレンジ版「浜辺の歌」の曲想の変化を楽しみながら、音楽を形づくっている要素と曲想の関わりを感じ取る学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。

3 主眼

アレンジ版の「浜辺の歌」を聴き味わう活動を通して、旋律(音の高さ、調)、速度によって変化する曲想と自己のイメージ(感情)との関わりを感じ取る学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

4 準備

- ①タブレット端末 ②「学びの軌跡」シート ③学習プリント ④学習スライド

5 過程

学習活動・内容	準備	各学習活動における主な手だて	形態	配時
<p>1 Flat for Educationで五線譜の読譜(記譜)を復習する。 ・ト音譜表の読譜、記譜</p> <p>めあて いろいろな散歩の様子をイメージしよう。</p>	① ②	○五線譜の読譜(記譜)の基礎的な技能を定着させるために、ドリル形式の読譜(記譜)練習をモジュール学習形式で繰り返し行う。	一 斉 ↓ 個	10
<p>2 「浜辺の歌」のアレンジAの曲想を感じ取り、イメージをもつ。 ・長調、短調による曲想や自己のイメージ(感情)の違い</p>	③	○それぞれが感じ取った曲想や自己のイメージ(感情)を可視化しやすくするために、あらかじめ選んだ様々な感情を表した顔の絵文字を提示し、アレンジAを聴いて感じ取った曲想にどれが最もふさわしいかを問う。	一 斉	10
<p>3 「浜辺の歌」のアレンジB、Cの曲想を感じ取り、イメージをもつ。 ・速度、音の高さによる曲想や自己のイメージ(感情)の違い</p>	④	○それぞれの思考の流れに応じて学習を進めることができるように、アレンジ版を各自で再生できる学習スライドを配付し、自身が聴きたいアレンジを選択して聴くよう促す。	個 ↓ 班	20
<p>4 学習のまとめをする。 ・音楽を形づくっている要素(旋律、速度)と曲想、自己のイメージ(感情)との関わり</p>		○音楽の感じ方の多様性に注目させ、それぞれ尊重させるために、どの絵文字を選んだかを全体集約し、意図的指名によって多様な意見を引き出し、全体共有する。 ◇グループ員の意見を傾聴しながら、旋律(音の高さ、調)、速度の変化する曲想と自己のイメージ(感情)に関する言葉をそれぞれ用いて、双方を関わらせながらまとめを書いていくか。〈様相観察、「学びの軌跡」シート〉	一 斉 ↓ 個	10

【アレンジ版の概要】

A: 旋律(調)⇒短調

B: 旋律(音の高さ)⇒2オクターブ高い、速度⇒約1.5倍速

C: 旋律(調)⇒短調、旋律(音の高さ)⇒2オクターブ低い、速度⇒約0.5倍速